

みどりのこえ

春号
2016

長野県環境保全研究所

平成28年(2016年)3月15日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1878 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



ワレモコウを訪れたゴマシジミ

人間が産み出した生態系の光と影

文・写真 上田 昇平

松本市には奈川という美しい里がある。奈川は北アルプスの南端、乗鞍岳の東に位置し、松本市街から自家用車で約1時間の距離にある。四方を山に囲まれた標高約1000～1200mにひろがる集落では伝統的な里地里山の利用が継承されており、ゴマシジミなどの草原性の絶滅危惧昆虫が多種分布している。

信州大学で山岳棲アリ類の多様性を研究していた私は、運良く奈川の生物多様性調査に参加することができた。2015年春、奈川を訪れると、草原ではウスバシロチョウとキバネツノトンボがみられ、交配相手を探していた。林縁ではウマノオバチが飛び回り、宿主であるシロスジカミキリの幼虫を探していた。夏～秋、ゴマシジミが食草であるワレモコウの花を訪れ、吸蜜や産卵をしていた。ウスリーマルハナバチやホンシュウハイロマルハナバチがアカツメクサの花で吸蜜し、花粉を集めていた。奈川ではこれらの風景がふつうにみられる。しかし、他の地域では至難の業だろう。なぜなら上にあげたすべての昆虫たちが絶滅の危機に瀕しており、

環境省や都道府県のレッドリストにその名を連ねているからだ。

私は、この人間が産み出した奇跡の生態系を体感した直後、17年半の間を過ごした信州を離れることになった。6年半のポストドク生活が実を結び、大阪府立大学に教員として就職することができたのである。新天地では大阪に侵入した特定外来種のアルゼンチンアリの防除に関する研究を開始した。アルゼンチンアリは世界の侵略的外来種ワースト100にも選ばれており、生態系を攪乱するやっかいものだ。攻撃性がつよく、侵入先で在来の生物を襲い、絶滅に追いやることもある。つまりアルゼンチンアリの侵入先では生物多様性が極端に低下する。

里山昆虫と外来昆虫、両極端な例を挙げたが、両方の生息地を提供しているのは人間だ。一方では失われつつある種をまもり、もう一方では圧倒的な侵略者を撃退するという矛盾はある。しかし、人間の手で救える種があるのであれば、それらを選択し、積極的に行動することが人間の責務かもしれない。(うえだ しょうへい/大阪府立大学)

Contents

【巻頭言】人間が産み出した生態系の光と影	1	第6回 里山と人との関わり～過去・現在・未来～	7
【特集】山と自然のサイエンスカフェ@信州		第7回 センサーカメラがとらえた高山帯の生物多様性	8
第1回 カメラでウォッチング!山の雪融け	2	第8回 信州の伝統行事と生物多様性	9
第2回 信州の草原の1万年	3	【報告】公開セミナー「岳都の自然、今とこれから」開催	10
第3回 信州の地学遺産とジオパーク	4	【フィールドノートから】「長野県デジタル地質図 2015」	11
第4回 シダ植物の多様性と進化	5	【お知らせ】気候変動適応策の新プロジェクトがスタート!	12
第5回 信州のさかなの話	6	平成28年度の催しのご案内	12